



## 四

月十四日の「いきいき寄席」、無事に終わってひとまずほっとしている。目の前のことに追われてジタバタしているときにはさっぱり見えなかったのに、肩の力が抜けるとスッと俯瞰できるものだ。つい数カ月前まで、こんな落語会にならうとは、想像していなかった。

会の企画をしたのは、塾を実際に始めるよりずっと前のことだった。落語教室を開くことにはしたものの、教室生がそう簡単に来るとは思えず、落語会を開いてPRをしようと目論んだのが最初だ。招く落語家は、縁あってこれまで何度も無理を聞いてもらっている笑福亭喬若さんに頼んだ。二月四日に来てもらえないかとメールしたのが今からちょうど一年前の四月。すぐに返事が来て、「来年二月なんてほぼ何もありません。大丈夫ですよ」と快諾。

この時のイメージは、ほぼ喬若さんの独演会だった。落語教室生がいることが想像できなかったからだ。もしも、一人、二人教室生がいたら、その子たちが前座を務めて喬若さんにつなぐ。喬若さんは小学校のPTA会長として奮闘した人だから、「PTA会長やりましてん」という演題でしゃべってもらって、落語一、二席で会を閉じる。観客は小学校保護者を中心に働きかける。今思えば、塾の広報が目的とはいえ、

かなりギラついていることがわかるのだが、どの馬の骨ともわからぬ学習塾を認知してもらわねば、との焦りが短慮に走らせた。

秋になって、そろそろ会場をおさえておかなくてはと、予定していた施設に連絡したら、大学受験が入っていて「やあ、そのあたりダメですわ。うちみたいな値段でできるとこ？ほかに？ないでしょ」と八方ふさがりをあざ笑うような返事だった。こういう場合は、不思議とどこかにいい出合いがあるような予感がしてくるもので、案の定誰彼構わず聞いているうちに、保護者のついで今回の東林寺に行き着いた。時期も四月に延ばせた。捨てる神あれば拾う神あり、だ。

落語教室生九名のうちの七名が出演。喬若さんは、子どもたちを立てるために自ら前座に回ってアシストに徹した。PTAの話もまったくなし。お客様は、幼児からお年寄りまでまさに老若男女の百名。「落語はお寺が発祥とも言われております」と喬若さんがマクラで語ったように、金色のご本尊をバックにびつたり高座がはまって、保護者の誰もが「最高の舞台」と喜んだ。

初期の構想は、あれこれ突き動かされてすっかり姿を変えた。貧相な構想なんぞ蹴散らされてなんぼだよ、と高座の後ろで仏様が笑われたような。

北海道への旅、三度目  
木幡智恵美

## 2

軽ワゴン車は二台目だ。退職して畑を始める時に購入したのが管理機を積み込めるワゴン車。畑が一キロ離れた二箇所にあつたため、耕すには管理機を乗せて移動する必要があつたのだ。伯父が健在だった頃は、伯父の畑もこのワゴン車で管理機を乗せて運び、耕した。

十年ほどそのワゴン車に乗って、軽乗用車に替えた。ぎりぎり管理機を積むことができない車だと判断して夫がそれに決めた。けれども、後部座席の窓は開かないし、前も手動で開けなければならぬ。後ろのガラス窓にワイパーはないし、何といつても狭い。「ジジの車ちっちゃ」と孫に何度も言われた。結局管理機は車に傷がつきそうでも乗せずじまい。そんなこんなで、夫は自分が決めたのにこの車を気に入ってはいなかったようだ。姑を病院に連れて行く際、座席が高くて乗せにくかったワゴン車と比べると、この車は低くてすんなりと乗せることができたし、私には小回りが利いて乗りやすかつたのだが。

二日酔いの夫に替わり、車会社に取りに行く。ただでさえ運転が得意でない私だ、慣れない車に乗るのは不安だった。約束の時刻に会社に入り、担当者に説明を聞き、書類に印を押す。実際の車を見ての説明は、七月初旬の照りつける太陽の下、汗が吹き出し、ぼうつとしながら聞く。それでも、前の車と違い、ボタン一つで前後の窓が開けられ、ライトは自動、危険物を察知すると自動制御がかかるという優れものだ。必要な手続きを終え、いよいよ車を引き取って帰る。キーを差し込み、おもむろに動かす。大丈夫、前に進んでいる。駐車場から九号線に出ると、前から馴染みの車のようにすすい進む。不安は吹き飛んだ。

ただ、車体が前のワゴンより大きく、車庫入れが難しかった。車庫の屋根が斜めになっており、入れ方によっては屋根に当たってしまう。後日、夫はペンキを買ってきて、車庫の床のセメントに印をつけた。それでも入れにくいので、娘や息子が来る時以外は、借りている広い駐車場に入れるようにしている。

こうして、車中泊もできる車は整った。そこから夫の準備が始まる。寝袋に折り畳み椅子、エアマットなど、ネット通販の物が次々届き出した。

**30代フリーター** イスラエル軍がガザ南部から1旅団を除くすべての地上部隊を撤退させた、と報じられた(4月8日朝日新聞朝刊)。軍は「部隊の回復と今後の作戦準備のため」と言っているそうだが、非人道的な攻撃を非難する世界の世論におされて後退を余儀なくされているのではないか。

**年金生活者** 「ジェノサイド」を疑われるガザへの無差別的な攻撃に対しては、最大の味方であるアメリカも非難せざるを得なくなっている。ハマスを根絶やしにするというイスラエルの野望はほぼくじかれたと言っている。

**30代** なぜそんな野望を持つんだ。

**年金** 旧約聖書の創世記には、神が自分の創った世界をリセットするノアの箱舟の神話がある。地上に人が増え、悪が増したため、人を造ったことを後悔した神は大洪水を起こし、ノアの家以外の人間を皆殺しにする。イスラエルのガザ攻撃はこのリセットの思想と重なる。

**30代** 旧約の神がしていることは、人

キリスト教のハルマゲドン(世界最終戦争)の到来を説いた。リセットの思想のテロへの適用をそこにも見ることができると。

**30代** ところで、リセットされた世界は神の意志にかなうものになったのか。

**年金** ノアの子孫たちの一部は有名になろうと、天まで届く塔の建設を始めた。神はそれが気に入らなかつた。それまで彼らは同じ言葉を話していたが、神はそれをいろんな言葉に分け、互いに話が通じないようにした。同じ言葉から、大それたことを企てるのだ、と。バベルの塔の神話だ。

人間はなぜ神の意向に背くことをしてしまふのか。「人は神にかたどって造られた」(創世記)からだ。人間を大量殺戮するような神に似せてつくられた人間が、常に清く正しく生きていくはずがない。

旧約聖書のヨブ記は神が人間に残酷なことをする代表的なエピソードだ。何の罪もないヨブの信仰心を試そうと

間なら許されないことだ。

**年金** リセットの思想が大量殺戮につながるからといって、それを全面否定することはできない。この思想はこれまで数々のイノベーションを引き起こし、文明を前に進めてきた。産業革命は既存技術の、民主制は独裁制のリセットによつてもたらされた。

つくったものを壊して新しいものをつくることができるという考えの根底には、神が創造した世界は神が壊すこともできるという旧約聖書の思想がある。それは現在も、つくり手を神から人間に代えて西洋の思想を貫いている。

**30代** 日本では新しいものをつくるより、つくられたものを手直ししようという考えが支配的だ。産業の技術やシステム、政治の制度を見ても、つくられたものを輸入し、それを改良して使うのを得意とするとされてきた。多神教の世界では、ひとりの神が思うがままに何かをつくったり、壊したりはできない。

して、神はサタンを使って、ヨブの財産や肉親の命を奪ったり、ひどい皮膚病にかからせたりする。

**30代** なぜそんな物語がつけられたんだ。

**年金** 創世記のノアの箱舟を含め、神の理不尽に見える仕打ちの数々は、避けがたい自然災害や、横行する犯罪、はびこる疫病を「神のすることなら仕方がない」と考えてしのぐための物語と考えることができる。

**年金** リセットか、手直しか、どちらがいいかは決められない。リセットすれば、新しいものが生まれるが、その代償を一挙に支払わされる負担をとまなう。手直しだと、その負担を分散できるが、出来合いのものデメリットを一扫することはできない。

おそらく人類史は、両方を世界に残すようにしながら進んできた。一方が他方の不足を補い、行き過ぎを抑えるというバランスがそれで保たれてきたと考えることができる。

**30代** リセットの思想そのものは善とも悪とも言えない。

**年金** それが戦争やテロに適用されたとき、無差別殺人の正当化につながる危険性を帯びる。9・11米同時多発テロで、アルカイダが旅客機をハイジャックし、まったく無関係の乗客を道連れにビルに突入したのは、その代表的な出来事と言える。イスラム教は旧約聖書を教典のひとつとしている。

地下鉄サリン事件を起こしたオウム真理教は仏教系の教団でありながら、

**30代** それを人間のする戦争の正当化に使うのは許されない。

**年金** 神が世界をリセットしても、人間が神に背くことをやめないように、イスラエルが神の代理人であるかのようになり、ガザを無差別攻撃してリセットしたとしても、イスラエルの意にかなう状態が到来することはないだろう。

**30代** 同じように無差別攻撃を続けながら、ロシアはイスラエルのように味方から非難されることもなく、中国など取引を続け、西側諸国による制裁で生じた空白を埋めている。

**年金** そこから見えてくるのは、中国やグローバルサウスの台頭と西側諸国の後退という構図だ。世界の大きな変化は先進地域から起きるといのが歴史の常識なので、西側諸国がある程度の後退を免れないとしても、この先なお世界を主導していくと考えるのが妥当のように見える。だが、その先進地域の役割を、経済大国化した中国がやがて担うとすれば見方は変わってくる。

ニュース日記 918  
中村 礼治

## リセットの思想